

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	第4670200510号
法人名	医療法人 厚徳会
事業所名	グループホームふるさとの家「すずらん」
所在地	鹿児島県薩摩川内市勝目町5215-5 (電話) 0996-27-6060
自己評価作成日	平成25年2月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点 (事業所記入)】

利用者が年齢と共に変化していく中でそれぞれの「できること・できないこと」を把握し、困っている時には職員の方から気づき、声かけ・援助をするよう努めています。

また、グループホームは利用者の家であり、職員も環境の一部であるという意識を常に持ちながら、家族のように寄り添い、穏やかに、安全に過ごしていただけるよう心がけています。

利用者の日々の健康管理(バイタルサイン・食事や排泄チェック・睡眠状況等)についても、医師・看護師・理学療法士・管理栄養士といった専門職に相談・協力をいただきながら取り組んでいます。

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島県鹿児島市下荒田2丁目48番13号
訪問調査日	平成25年3月15日

薩摩川内市郊外の住宅地に立地し、道路をはさみ母体である医療機関も併設されて利用者の健康管理や急変時における適切な対応などは利用者・家族の安心に繋がっている。法人は他にも通所リハビリステーション・居宅介護事業所・訪問介護事業所・小規模多機能ホーム・高齢者向け住宅などを運営して地域の医療と高齢者福祉の一端を担ってきている。

本人・家族の思いや希望による看取り介護も行っており、母体医療機関の医師と看護師、職員がチームとなって住み慣れたこの地で最期を迎えられるように最大限の支援に取り組んでいる。

離職が少なく、ほとんどの職員が常勤で職員体制も整い、資格取得にも意欲的で現在、介護福祉士10名、介護支援専門員1名、ヘルパー2級とほとんどの職員が有資格者で介護の知識と経験の豊富な職員が多数確保されている。

平成13年開設のため、90歳以上の利用者も多く、加齢に伴う身体機能の低下は否めない(現実ではある)が、精神的に元気な利用者が多く、表情も穏やかである。また、入居時からの介護度を維持して元気に生活している開設当初からの利用者もいる。

管理者・職員は今できることを可能な限り経験させてあげたいとの思いで利用者に寄り添うケアに心がけ、利用者の思いや意向を把握するように努めている。今後も家族・地域の協力をもらいながら、個々に応じた個別支援に力を入れて更に地域と密着したグループホームを目指している。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	「ゆっくり 楽しく 穏やかに」をユニット理念として掲げ、朝礼後の復唱も行っている。	法人の地域交流の大切さを謳った地域密着型サービスの理念とユニットごとで作成したケアの目標としての理念を掲げている。理念は玄関、ホール、事務所内、職員紹介の案内板に掲示し、毎朝唱和して共有と実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	保育園運動会や自治会が行う夏祭りや敬老会を見学させてもらったり、同地域に住んでおられる家族の協力をいただいて近所の畑で芋掘りをさせてもらう等、交流を図れるよう努めている。	自治会夏祭りと近隣の保育園の運動会には毎回利用者の見学席が確保されて出かけている。また、地域の敬老会に参加している利用者もいる。中学生の職場体験、ボランティアの受け入れも行っている。自治会には加入していないが地域とは良好な関係が築かれており、ホームの避難訓練に自治会からも参加してもらうなど協力関係が築かれている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	運営推進会議内でしばしばあがる認知症に関するご質問に対して、経験を踏まえた上で出来る限りお答えし、理解を頂くよう努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	前回の運営推進会議で取り上げられた検討事項や懸案事項について、その経過を報告し合い、一つ一つ積み上げていくようにしている。また、これまでの評価を踏まえ、現在取り組んでいる内容についても報告し、意見をもらうようにしている。	自治会長、民生委員、家族代表、市役所職員、消防局職員などの参加を得て2カ月に1回開催している。ホームの状況報告、事故報告等を行い、避難訓練における具体的な安全対策の話し合いも行われている。参加者からは毎回、活発に意見や助言等が出されており、地域との協力関係やサービス向上に活かされた有意義な会議となっている。	

鹿児島県 グループホームふるさとの家「すずらん」

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議以外にも、都度市の担当者と運営に関わる相談やサービス向上のための助言をいただいている。	運営推進会議に市役所職員の参加があり、ホームの実情や取り組みなどを伝えている。また、社会福祉協議会や市役所から高齢の祝いを届けに訪れることもある。事故報告や困難事例などの相談などでも日頃より連携を図り、協力関係を築くように努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会を開催し、利用者の認知症状への対応として身体拘束が行われていないかを振り返る機会としている。また、ミーティングや申し送りで、身体拘束が行われていなかったかをお互いに確認し合い、話し合いを進めている。	定期的な勉強会や日常の業務の中での確認などで職員が正しく理解できるように努め、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。日中は施錠などせずに玄関のセンサーで外出の察知をして職員がさりげなく着いて行き、見守っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティングや虐待防止マニュアル・高齢者虐待防止法についての勉強会等を通じて、一人一人が虐待についての理解を深め、注意を払えるように取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護のしくみ（成年後見制度・日常生活自立支援事業）についての勉強会を行ったり、外部での研修がある時は参加するようにしている。社協の担当者から情報があれば、都度申し送りやミーティングで全職員に伝達するようにしている。		

鹿児島県 グループホームふるさとの家「すずらん」

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間をとって丁寧に説明している。認知症の症状で困っていることや起こりうるリスク、重度化や看取りについての対応、医療連携体制の実際などについては詳しく説明し、同意を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の言葉や態度からその思いを察する努力をし、利用者本位の運営を心がけている。利用者の不安・意見等は、各ユニット毎に話し合いを行い、特定の職員の中で埋もれさせないようにしている。	面会時、電話連絡時、担当者会議で家族から意見、要望を聞き出すようにしている。また、離職が少なく家族ともなじみの関係が築かれており、職員は全家族に対応できるように情報の共有を図り、面会時には必ず、家族と話をする時間を設けて利用者の近況を報告している。出された意見・要望は職員間で話し合っ運営に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月2回、ミーティングを開催し、運営について職員同士で話し合い、その内容についても議事録を残している。すぐに結論が出なかった事については、後日じっくりと話し合い、まとめれば、その都度申し送り等で報告をしている。	毎朝夕の申し送り、月2回の全体会議とユニット会議で職員の意見・提案などを話し合い、勉強会や事故事例についての再発防止に向けた検討会議も行っている。離職が少なく、意見・要望が表しやすい環境にあり、職員間のコミュニケーションが図られている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の資格取得を奨励し、取得後は手当として給与に反映するだけでなく、本人の意向を取り入れながら職場内で活かせるよう努めている。外部で研修がある時は案内し、興味のあることや不足している知識を学べる環境作りを行っている。		

鹿児島県 グループホームふるさとの家「すずらん」

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>事業所外で開催される研修にはなるべく多くの職員が受講出来るようにしている。ミーティング時には、研修報告を行ってもらい、研修報告書を全職員が閲覧できるようにしている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>全職員へグループホーム連絡協議会等の研修への参加を呼びかけ、そこで得た知識や事業所外の意見・経験をケアに活かせるよう取り組んでいる。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスの利用について相談があった時は、必ずご本人に会って心身の状態やご本人の思いに向き合い、職員がご本人に受け入れられるような関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族や本人が求めているものを理解し、事業所としてはどのような対応ができるか、事前に話し合うようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	十分なアセスメントを行い、本人とご家族がどういった支援を必要としているか話し合った上で、相談に応じている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員の方から利用者の心身の状態や得意な事を考慮しながら、手伝いをお願いし、人の役に立っている喜びを感じてもらい、介護する・されるといった一方的な援助にならないよう努めている。		

鹿児島県 グループホームふるさとの家「すずらん」

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族や本人の思い・状況を見極めながら、外出や外泊で家族と一緒に過ごすことを勧めるなど、より良い関係の継続に努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	個別に話を聞いたり、相談にのったり、皆で楽しく過ごす時間や気の合う者同士で過せる場面づくりをするなど、利用者のなじみの関係が続くように職員が調整役となり、支援している。	地域出身の利用者もあり、地域行事や学や敬老会などに継続して参加できるように支援している。また、同法人のデイサービス利用の友人知人が訪ねてきたりこちらから会いに行くなどして関係が途切れないようにしている。道路向かいの美容室は利用者の行きつけとなっており、なじみの関係が築かれている。他にも、会話の中で墓参りや自宅訪問などの希望が聞かれれば、家族の協力をもらいながら支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	普段の生活の中で、他者との関係が悪くならないよう時には職員が仲介役となったり、互いの愚痴や不満を聞いてあげる等、良好な関係が保てるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	本人や家族と接する際に現況を把握できるよう努めており、必要に応じて相談・支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用時に本人や家族から聞き取るようにしている。その後も会話をしていく中でどのような生活をされていたか等を聞くようにしている。	日常の会話で思いや意向を聞き出し、把握するように努め、意思疎通の困難な利用者からは表情や言動、家族の情報から本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	担当ケアマネージャーや家族よりこれまでの生活経過を聞き、それらを職員間で共有し、理解できるようミーティングで繰り返し話し合い、サービスの反映に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様が自分らしく暮らせるように、要望を伺い、課題となる事柄についてスタッフ全員で話し合い、計画作成担当者が中心となって介護計画の作成を行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画の遂行状況、効果などを担当者により評価するとともに、利用者の状態の変化、家族・本人の要望に応じて見直しを行っている。	本人・家族の意向や要望を聞き、職員の意見、提案など反映させて個々に応じた介護計画を作成している。3か月ごとのモニタリングと毎月、個別担当者で計画作成担当者が独自に評価を行い、問題が生じたらその都度見直しを行っている。変化がなくても定期的（6カ月）に見直しを行って現状に即した介護計画を作成している。	

鹿児島県 グループホームふるさとの家「すずらん」

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子については、個人ごとのケース記録に記入し、月末には担当者による評価を行い、状況の確認が容易に行えるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療機関の受診の付き添いや面会の送迎、買い物支援など家族が行けない時は、事業所が代わって行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が安心して地域での暮らしを続けられるよう、消防・自治会・民生委員の方々に運営推進会議への参加をお願いし、意見交換の場として活かしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医の他、利用前からのかかりつけ医を受診できるよう家族と協力し、通院介助を行い、必要に応じて複数の医療機関との関係を結んでいる。	本人、家族の希望によるかかりつけ医の受診を支援している。法人の医療機関がかかりつけ医となっている利用者がほとんどであるが、入居前からのかかりつけ医を継続している利用者もいる。他科受診等基本は家族にお願いしているが、本人・家族の状況に応じてホームでも柔軟に支援している。	

鹿児島県 グループホームふるさとの家「すずらん」

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療機関の看護師に毎朝利用者の状態の申し送りを行っている。夜間緊急時には待機看護師により応急処置が行なえるよう体制作りを行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院によるダメージを極力防ぐ為担当医・看護師と話しをする機会を持ち、事業所内での対応が可能な段階でなるべく早期に退院できるようアプローチしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の対応指針を定め、家族・医師・看護師を交えて話し合いを行っている。また、状態の変化があるごとに家族の気持ちの変化や本人の思いに注意を払い、支援につなげている。契約時や担当者会議の際に聞ける範囲で終末期の過ごし方についての要望等に応えられるよう本人・家族から聴き取りを行っている。	重度化や終末期におけるホームの方針は指針を作成して入居時に説明し、同意を得ている。入居後は利用者の身体状況に応じて主治医の判断のもと、家族と方向性を話し合い、急変時の対応なども含めて再度、家族の意向を確認した文書を作成している。これまでも本人の思いや家族の意向に沿った看取り介護を行っており、医師・看護師・職員が連携を計りながら取り組んでいる。	
		○急変や事故発生時の備え	急変時や事故発生時にはすぐに		

鹿児島県 グループホームふるさとの家「すずらん」

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時にはすぐに看護師に連絡し、指示を請うようになっている。夜間緊急時の対応の仕方については、全職員が見ることができる事務所に掲示している。また、平成24年度より法人において消防署で行われている普通救命講習の受講を推奨している。		

鹿児島県 グループホームふるさとの家「すずらん」

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し、年2回利用者と共に消防訓練を行っている。地域との協力体制については、運営推進会議等で自治会長を通じて地域の方へ協力の呼びかけをお願いしている。今後は近隣の住民や店との連携ができれば、との展望を持っている。	年2回夜間想定で避難訓練を行っている。自治会からも消防担当者や自治会代表者の参加が得られており、運営推進会議でより具体的な安全対策の話し合いも行われている。実際に職員が駆けつける時間と夜勤者2人で全員を避難させられる時間も計るなどの実践的な訓練も行っており、法人関連の施設とも協力関係が話し合われている。スプリンクラーは設置済みで備蓄も確保されている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々の関わり方については、リーダーが確認しながら、ミーティング時に職員一人一人が利用者の誇りやプライバシーを損ねない対応について改めて考える機会として意識向上が図れるようにしている。	年長者である利用者に対して誇りやプライドを損ねない声かけや対応に心がけ、定期的な勉強会やミーティング時に自己を振り返る機会を作るなどして職員の意識向上を図っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員側で決めたことを押しつけるのではなく、複数の選択肢を提案して利用者が自己決定する場面を作っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事やおやつ・入浴などの大まかな時間はユニットで決めているが、ご本人の気持ちを尊重して、できるだけ個別性のある支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	着替えの選択についてはできる限りご本人と一緒にしている。また、ご家族からの意見も取り入れるようにしている。散髪は、本人または家族より要望があれば近所の美容室までの送迎を行っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員が全てを行うのではなく、お盆拭きや食器の後片付けなどできる範囲でのお手伝いを決して強制することがないようにいただき、食事の時間が楽しみになるよう工夫している。	食事の準備や後片付けなど出来ることは手伝ってもらっている。時には、蒸しパンやスイートポテト作りをしたり、気候のいい時期は中庭でお茶を楽しんだりしている。夏にはかき氷を楽しむこともある。	

鹿児島県 グループホームふるさとの家「すずらん」

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取状況や毎月の体重の変化をチェックし、栄養状態を把握している。定期的に管理栄養士からの専門的アドバイスをもらっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人一人の力に応じた口腔ケアを行っている。ブラッシングができない利用者にもガーゼやうがい薬を使用して口腔内清掃を行い、清潔保持に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を使用し、便意や尿意のない利用者にも時間を見計らって誘導し、トイレで排泄できるよう支援している。	排せつチェック表を作成して個々の排せつパターンを把握し、身体状況に問題がない限り、日中はトイレでの排せつを支援している。また、自立している利用者もおり、職員のさりげない声かけや誘導で維持できるように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況を常にチェックできるようにしており、こまめな水分摂取や間食に乳製品やサツマイモを取り入れたり、散歩や体操等体を動かす機会を適度に設け、自然排便ができるように取り組んでいる。		

鹿児島県 グループホームふるさとの家「すずらん」

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	必要とされる介助の程度に合わせて午前と午後に分けて入浴をいただいている。本人の希望に沿って可能な限り、湯船にも浸かっている。	基本的には週2～3回を目安としているが希望があれば毎日の入浴も可能で個々に応じた入浴の支援を行っている。自立している利用者もおり、職員のさりげない見守りで維持できるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促し、生活リズムを整えるよう努めている。また、一人一人の体調や希望等を考慮して、ゆっくり休息がとれるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の種類や用量が変更されたり、本人の状態に変化が見られる時はいつもより詳細な記録をし、看護師へ都度報告をあげている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの個性を發揮してもらえよう、又本人の負担にならないように、体調や気分に合わせて仕事をお願いするようにしている。仕事を終えた後には、感謝の言葉を伝えるようにしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候や体調を考慮しながら、散歩・買い物・ドライブなどに出かけて心身の活性につながるような支援を行っている。	日常的にはホーム周辺の散歩や隣のコンビニエンスストアに買い物に出かけ、午後から少人数で海や公園までドライブに行くこともある。また、季節の花見、地域行事見学、芋掘り、初詣などにも出かけて季節を感じられるように外出支援を行っている。他にも個別で外食や美容室などへも出かけている。	

鹿児島県 グループホームふるさとの家「すずらん」

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>家族の協力を得て小額のお金を持っている方もいる。家族よりお金を預かり、事業所が管理している方も、会計の際にはご自分で支払っていただく等の支援を行っている。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>電話の取次ぎ・家族へかけたい等の要望に応じて行っている。手紙は、ご本人へ直接お渡しし、小包などをいただいた時は着いた事を知らせる電話をかける支援などを行っている。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>平成24年4月より業者が調理し、盛り付けのみを厨房で行っている。業者の献立も季節を感じてもらえるよう工夫されている。グループホーム独自の行事として厨房で調理を行うこともある。食堂に大きなテレビが置かれており、団らんすることもある。</p>	<p>共用空間のリビングは広く、食事のテーブルとくつろぎのソファの配置が工夫されてメリハリのある生活が送れるように配慮されている。リビングから直接出入り出来る中庭もあり自由に日光浴やお茶を楽しんでいる。ユニット間は開閉式の壁で仕切られているが、自由に行き来できるため開放的である。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>玄関や中庭に椅子を置き、一人で過ごしたり、利用者同士の交流の場所になれるよう工夫している。</p>		

鹿児島県 グループホームふるさとの家「すずらん」

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入所の際には家族の写真や使い慣れた家具を持ち込んでいただいている。利用者の変化に応じて本人・家族・職員で話し合いを行い、利用者にとって安全で心地良い環境作りを心がけている。</p>	<p>ホットカーペット、タンス、ソファ、テレビ、冷蔵庫、家族の写真、飾り物などが持ち込まれ居心地良く過ごせるように工夫されている。また、全居室にトイレ、洗面台が設置されており、排せつ及び整容の自立と利用者のプライバシーが配慮されている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>利用者の状態に合わせて、共有スペースも含めた居住環境が適しているかを見直し、安全確保と自立への配慮を行っている。 人間関係や介助の必要性に変化が生じた場合は、利用者のご理解を得た上で、席替えや模様替えを行っている。</p>	/	/

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

鹿児島県 ふるさとの家「すずらん」

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
		○	3 あまり増えていない
			4 全くいない

鹿児島県 ふるさとの家「すずらん」

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない